

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2020. No.355 **2**  
ハンガーゼロ・ニュース

特集 *Child* Supporter  
チャイルドサポーター

## Contents

子どもたちの希望になろう！

「活動を支援する」3つの事例報告

7月開始 ルワンダ新支援地紹介

家族のStory(ストーリー)

めぐみレター(サポーターさんの声)



1分間に17人(内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています

放課後の子どもクラブでフラッシュカードを使って英語を学ぶ子(カンボジア)



特集 **Child Supporter**  
チャイルドサポーター

# 子どもたちの希望になろう!

近年、日本の子どもたちの将来の夢はスポーツ選手、パティシエ、保育士、教師、医者、看護師、中にはユーチューバーやプロゲーマーと実に様々です。しかし開発途上国で貧困の中にいる子どもたちは、そのような夢を持つことすらないかもしれません。そればかりか、大人になるまで生き延びることができるかどうかも分からないのです。

チャイルドサポーターのスローガンは「子どもたちの希望になろう!」です。貧困のために将来に希望を持つことができない子どもたちが、将来に対する希望が持てるように、また子どもたちが地域における未来の希望となるように活動をしています。

この活動は、子どもたちを取り巻く環境を改善していく教育、リーダー育成、保健、収入向上(生計)、防災など7つの分野を軸にしています。それによって、子どもたちと地域の人々の生活が変えられ、地域全体が貧困から卒業できるまで活動を続けます。地域のリーダーや保護者が活動の大切さを学ぶことは、地域にとって大きな力となります。

チャイルドサポーターの働きは、自転車の車輪に例えることができます。自転車の動力は乗っている人の力です。いくら良い自転車に乗っていても漕がない限り前に進むことはありません。つまり子どもたちや地域の人々が希望を持って動き出すことがとても大切なのです。初めから自転車を上手に乗りこなせる人はいません。そのために現地スタッフが人々に寄り添いながら活動を導き、それを私たちサポーターが補助輪となって支えます。しかしいつまでも補助輪付きの自転車に乗るわけではありません。子どもたちや地域が貧困から卒業する時、補助輪は外され、地域がひとり立ちをする瞬間を迎えます。

チャイルドサポーターの活動は地域の人々が自立できる日まで、自分たちの力で前進し続けることができるように助けながら、貧困からの卒業を目指して活動を続けます。そのために皆さまに大切な補助輪の役割を担っていただきたいのです。皆さまの支えは、子どもと地域の人々にとって大きな力となり、希望となります。

地域の人々と共にゴールを目指していきましょう。

## 3つのSTEP!



1 子どもたちも、住む地域もまだひとり立ちできません。

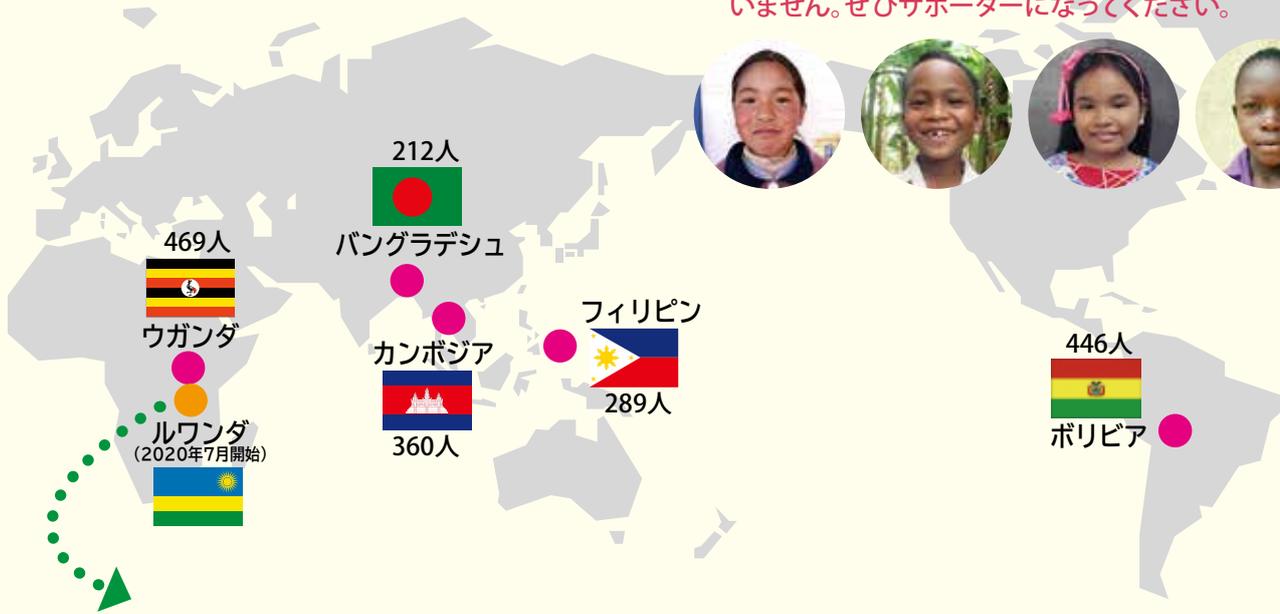


3 補助輪がはずれ、子どもたちも地域も自立できる日がきます。



左図はパンフレットからパンフを希望される方は大阪事務所まで

この内182人の子どもたちがまだサポーターさん  
いません。ぜひサポーターになってください。



## 7月スタートの新支援地 ルワンダ「サルエシ村」を紹介します

サルエシ村は、ルワンダ南部ルアンゴ郡のムウェンド地区にあります。主要道路のミヤンガ・ルアンゴから約20kmの所ですが、村は山岳地帯にあり岩が多いため、道路が整備されていないことからこの地域へのアクセスは非常に困難です。この地域には、775世帯、3,447人が住んでいます。

村の人々は農業を営み、自給自足の生活をしています。主な農作物は、豆、キャッサバ、さつまいも、バナナです。牛、豚、ヤギ、鶏を飼っている家族はわずかです。農業においては土壌の浸食や酸性化によって土壌が劣化など、多くの課題を抱えています。

### 劣悪な環境のため様々な問題と直面する人々

また、この地域には多くの基本的なインフラが不足しています。小学校、中学校はなく、幼児開発センターが2つあるだけで、それも状態は極めて劣悪です。子どもたちは、6km離れた近隣のガンフゾ村にある学校や、違う地区のバイマーナ村にある学校まで通っています。そのため、子どもたちの登校は安定せず、学力低下の問題を引き起こしています。

またこの地域には保健所がないため、住民は7km離れた最寄りの保健所まで行かなければなりません。保健所まで遠いため、特に妊婦などが出産前のケアを十分に受けることができないなど、悪影響を及ぼしてい

ます。

地域の人々にとって、水不足もまた大きな課題です。母親や子どもたちが水汲みのために多くの時間を費やします。子どもたちは学校に行く前に水汲み(写真⑥)に行くため、学業に十分な時間が取れず、学力低下を引き起こしています。また水不足は家庭での不衛生の原因となり、それに起因する病気を引き起こしています。



学校トイレが少ないために順番に並ぶ子どもたち



ルワンダ・サルエシ村の子どもたちの支援につきましては、申込受付の準備が整いましたら改めて紙面やウェブサイトでお知らせいたします。

# 子どもたちの希望になる！ 地域変革をぜひ応援



手洗い講習 (ウガンダ)



貯蓄グループ (フィリピン)



農業ボランティアへの訓練 (カンボジア)

## 子どもを元気にする食の支援

**[ボリビア]** (アサワニ地域) 健全な学校運営を目指すために FH は、教師、親、子どもたちの関係を強化しています。例えば、子どもの健康を考えて休憩を促すことや、給食と衛生習慣の実施、学校菜園で野菜を育てる、特別な日に



野菜の食育 (ボリビア)

は学校でみんなでお祝いをする、などの活動を行っています。アサワニの学校では、「健康と栄養について考える」フェアを自治体のリーダーたちと一緒に開催し、子どもたちは学校で栽培した野菜を親や教師、生徒たちに披露しました。

### ●学校給食

**[ウガンダ]** FH は、4つの学校で学校菜園を始めるにあたり、とうもろこし、豆、大豆の種などを提供しました。この活動は、学校が給食に必要な食材を育て、子どもたちに給食を提供することができるようになるための取り組みです。2つの学校で1,800人の生徒たちが給食を受けることができました。

## お母さんから変わる収入向上

貯蓄グループの活動は、地域に住む人々が貧困から抜け出すための方法の一つとして取り組まれています。貯蓄をする習慣がなかった人々が、読み書きや帳簿の管理方法について学びます。グループのメンバーはお互いを信頼することを求められます。グループのメンバーは、毎週少額のお金を貯蓄していき、小規模ビジネスを始めたい人や家庭の必要が出てきた時に、そのお金を借りてそれに充てます。

**[フィリピン]** マトノグ地区では、2019年8月に2つの貯蓄グループから8名が、地域を基盤とした企業開発セミナーのワークショップに参加しました。セミナーを通して、小規模ビジネスについて、またそれに向けてのビジネスプランを立てるためのスキル習得について学びました。メンバーたちは、養豚や野菜販売など、個々が現在営んでいる分野において、さらに収入向上を図る可能性を探っています。

**[カンボジア]** スパイルー地域では、地域で収入向上プロジェクトに取り組んでいます。障がい者による食料品店、地域メンバーによる地域保育園の運営が行われている他、女性と若者のグループによる小規模ビジネスの活動も行っています。地域保育園では、今期新たに堆肥で500個のカシューナッツが栽培されました。メンバー同士が、励ま



養鶏 (カンボジア)

FH= 国際飢餓対策機構

巻き家族、地域が貧困から抜け出すことができるように支援をしています。  
 ついてご報告いたします。※支援方法は「活動を支援する」と「子どもを支援する」の2つがあります。P.7にご案内

## 援してください

し合い、助けが必要なメンバーを支えています。FHカンボジアのスタッフも技術的な訓練などで励ましています。

また、地域の農業ボランティア50名が養豚とトウモロコシ・野菜を統合的に育てるシステムについての訓練を受けました。養鶏、養魚、トウガラシ、茄子、ほうれん草、レモングラスを育てる訓練も行われました。

**【ボリビア】** ボリビア・リオカイネ地域

### ●養鶏の実施

小形動物の飼育がスクスマ村とフロ・チコ村で実施されました。鶏の卵には大切な栄養が含まれていることを知り、この活動に関わっている家族は雌鳥の数を増やし、卵を売る小ビジネスを計画しています。

### ●魚の養殖

リオカイネのスクスマ村では、養魚は食肉の代用になり、魚肉にはタンパク質とビタミンがふくまれているため、栄養価が高い食べ物という理解が浸透してきているため、魚を養殖する家族の数が増えてきています。

### ●ヤギ飼育プロジェクト

**【フィリピン】** マトノグ地区ではマニラの教会の支援を受けて、2019年3月現在、7名のメンバーが母親ヤギ12匹と子ヤギ12匹を育てながら、技術的なトレーニングを受けています。ヤギの健康状態を保つために、予防接種や駆虫の処置も取られました。

**【ウガンダ】** 2019年4月から9月の期間に、85世帯に1匹ずつヤギが支給されました。ヤギは数を増し、50匹の子ヤギが生まれました。ヤギは各家庭で売られ、教育やその他の必要のために充てられています。

増加し、衛生的な水を使用する家庭が56.4%から78.1%に増えました。

**【カンボジア】** 6つの村の7グループ、計73名の女性の保健ボランティアが活動をしています。24名のボランティアたちが、地域で手に入る材料で簡易手洗いタンクの作り方を教わりました。手洗いの習慣を定着させることによって、家族や特に子どもたちの下痢の発症をなくすのが狙いです。このタンクを新たに使い始めた家族が30世帯ありました。また、48名の保健ボランティアたちが、妊婦のケアについて、また新生児に必要なケアについて母親たちに伝えました。

### ●管井戸（手押しポンプ）の設置及び整備

**【バングラデシュ】** マチュパラ地区では、多くのグループメンバーの家に井戸がないため、近くの池の水を料理や掃除、飲料水として使っていました。それが原因で下痢、赤痢、コレラ、汚水による感染症で苦しむ人々が多くいました。保健活動を通して、女性たちは近所にある井戸から水を汲むようになりました。しかし水汲み場は遠く、女性にかかる負担が大きかったことが問題でした。FHは、地域リーダー



安全な水で料理（バングラデシュ）

と話し合いを持ち、管井戸を提供しました。今、地域の住民たちはこの井戸から飲料水その他の家事仕事に必要な水を得ることができるようになりました。

すでに設置されている管井戸も衛生面の維持と耐久性を考慮し、水場の整備を行い、現存している管井戸には排水システムを備え付けました。これによって地域の人々はより安全な飲料水と水による病気から守られるようになりました。

## いのちの源…地域の水事情改善

**【ウガンダ】** マガダ、イジランゴビ両地区において、320回にわたり、保健衛生についてのトレーニングが行われました。16のボランティアグループが、下痢の原因と予防、浄水、正しい手の洗い方、手洗いの設置などの保健衛生についての勉強をしました。ボランティアを通して2,112人の近隣メンバーに保健についての知識が伝えられました。その結果、手洗いのステーション使用率は21.8%から78.1%に

Child Supporter  
 チャイルドサポーター

支援を通じて…  
 子どもと喜びを  
 分かち合えます

「子どもを支援する」チャイルドサポーターになると…成長記録、現地の活動報告、クリスマスカードが届きます。また、子どもたちとの手紙のやりとりを通して、交流することができます。例えば、住んでいる地域のことや、好きな勉強や食べ物、将来の夢などをすることで、子どもをより理解することができます。また子どもたちからの質問もあります。



支援のお申込みは、ウェブサイト又はお電話でCS事務局へ 直通TEL072-920-2226

家族の  
Story  
ストーリー

サイダさんは、母親と祖母と一緒に暮らしています。サイダさんの姉妹は別れた父親と住んでおり、時々週末に訪ねて来ます。

(FHボリビアの現場から)

FH= 国際飢餓対策機構

■ サイダ アグイラー カマチョさんとその家族 ■  
食の問題に取り組んでくれたFH



写真後列左からFHスタッフ、サイダとお母さん。前列に祖母。

サイダさんと家族の問題

サイダさんと家族はカラフタ地域に住んでいます。母親のジュリアさんは二人の娘の衣服や教育費のために長年必死に働いてきました。サイダさんの姉のギルマさんが別れた父親と一緒に住むようになり、父親はサイダさんの養育費と教育費を払っています。そのため母親はサイダさんと実母の面倒だけを見ることになりました。母親は果物を売ったり、パパイヤやレモンを栽培している農場で働いたりしていますが、重労働なのでパートタイムです。家族は小さな畑を家のそばに持っています。また近くに公共の水道があり10日に1度水を貰うことができます。時々ヤギの肉やミルクも手に入れることができます。

学校と関係した FHボリビアのサポート

サイダさんの通う学校を訪問した時、彼女のクラスの担任が「サイダさんはとても良い生徒ですが、病気のようなので訪問してくれませんか」と話したので、スタッフはすぐにサイダさんと母親、そして祖母のサビナさんを訪問しました。サイダさんは肝炎と



胃潰瘍にかかっている、医者のお勧めで薬を飲んでいました。卵やピーナッツ、牛乳、チーズ、豚肉といった脂肪分のあるものを食べることを禁じられていたため、長い間、学校に行くことができていなかったのです。訪問したスタッフは、サイダさんと祖母、母親、そして姉妹のために祈って励ましました。

母親は、FHの地域変革プログラムを通して、家族の畑の収穫を増やしたり小動物(卵を産む雌鶏<sup>めんどり</sup>)の飼育をする食の安定確保に焦点を当てた活動に参加し始めました。家族に男性がいないため、重労働である畑の基礎作りにも手助けを得られるようになりました。家族はFHボリビアの訪問をとっても喜び、力づけられ、時々家に来て聖書のことばを話してくれることに感謝しています。

サイダさんと母親の声

サイダさんは「私の家族は生きることに疲れていました。沢山の困難、特に私の身体の具合が良くなかったことなどがあったからです。また私たちは教会に行って神様に導きを求めることもしませんでした。」

サイダさんの母親は、「私たちが訪問して、支援とお祈りで支えてくれたFHスタッフにとっても感謝しています。娘のサイダもまず神様に、そして彼女の健康と回復のために祈ってくれたスタッフに感謝しています。」と語っています。

## 子どもを支援する

## ■ 国分福音教会のみなさん ■

## 中学生になったロサナック君の成長を喜ぶ



国分福音教会 丸本裕美さん

私が最初に飢餓を知ったのが1970年頃のビアフラの子どもたちの写真でした。やせ細ってお腹だけがふくれた子どもがすごく悲しい目をしていた記憶が、子どもだった私にも残っています。

一方、私は親の愛情を受け、衣食住困ることなく、教育も受けて不自由ない生活が当たり前と思いき、感謝することよりも不平不満が出て来る者だったと思います。世界で起こっている飢餓問題も、大変と思いつながら何も行動することはありませんでした。そして実際にチャイルドサポートをするまでに半世紀近くの年月が過ぎてしまいました。

大人になりクリスチャンになって、イエス様は弱者に対して深いあわれみの心をもっておられることを知りました。

「もしあなたが、『私たちはそのことを知らなかった』と言っても、人の心を評価する方は、それを見抜いておられないだろうか。あなたのたましいを見守る方は、それを知らないだろうか。この方はおのおの、人の行いに応じて報いないだろうか。」(旧約聖書・箴言24章)

## 継続支援の必要性に気づかされて

見て見ぬふり…神様は心を見ておられることが心の隅にありました。心に引っかかりながら、募金はしても少額で単発ならサポートにならない、という思いもありました。

ある時、ハンガーゼロの集いでチャイルドサポーターの話聞き、自分のできることで分かち合える喜びが与えられると共に、継続して支援していく必要を思わされました。そこで教会でチャイルドサポーターの話をし、サポ-



ーターに申し込む事にしました。また、このことは大人だけでなく、キッズチャペル(教会学校)でも共有することにしました。そしてロサナック君というカンボジアの男の子をサポートすることになり、今年で丸5年になろうとしています。子どもたちがキッズの募金箱を作り、ロサナック君の顔写真も貼ってくれました。年に2回ほどですが、手紙でお互いの近況を連絡し合い、中学生になったロサナック君の成長を写真で見て、教会全体で喜んでいきます。

事務所の方々による、手紙の翻訳や、多岐にわたるお働きを心から感謝致します。これからも支援を継続できるように祈っていききたいと思います。



登録はこちら▶



詳しくはウェブサイトへ

Child Supporter  
チャイルドサポーター

## 子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、その地域で行われる活動を支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円

子ども1人を支援することができます。

## 2つの支援方法

## 活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動を支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～

月々または自由なタイミングで支援できます。

お電話での問い合わせはCS事務局へ 直通TEL072-920-2226

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

## 募金にもなる 「チョコレートセット」 プレゼント用にいかがですか

フェアトレードチョコレート2個セットで1千円(送料180円とハンガーゼロへの募金60円含む)

チョコレートの種類はおまかせとなります。プレゼント用には簡易ラッピングでお届けしますのでお申し込み時にお知らせ下さい。また、チョコレート2個以上ご希望の場合はお問合わせください。



※チョコレートが無くなり次第終了させていただきます。

【お支払い】後払い

お申し込み：(株)キングダムビジネス  
スマートフォンは上記QRコードから  
電話注文：06-6755-4877



## 書き損じ「年賀はがき」で協力

書き損じた「年賀状」やポストに未投函のもの(書き込み、汚れのあるもの、私製ハガキは不可)、また消印のない「未使用切手」がありましたら、大阪事務所までお送りください。国内外の通信に用いさせていただきます。

【2019年実績】

はがき：325,047円分  
未使用切手：202,032円分

灰に覆われたパイナップル畑(現地メディアから)



## フィリピン火山の被害甚大

～HOLPFI 酒井駐在員から～

43年にぶりに噴火したタール山の火山灰などの被害が拡大しています。マニラ近郊で有名な観光地タール山は、観光だけでなく、コーヒー、バナナ、パイナップルプランテーション、カルデラ湖でのセラピヤ養殖と多様な事業が行われており、経済面での被害も深刻です。また現地では地割れなどもあり、17万人を超える人々が避難生活をしているとのことです。現在、ハンズ・オブ・ラブとFHフィリピンでは支援にむけて協議を進めています。

## ファシトレ参加者募集!

国際協力を目指す人の学び

3月16日から20日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテーター・トレーニングキャンプ at TCU」(東京基督教大学内)の参加者を募集しています。将来、途上国の人々と共に生き、働きたいと願っておられる方のためのキャンプです。共同生活をしながら専門的な講義とグループワークで楽しく学べます。

参加費：3万円(宿泊・食費込み。会場までの交通費は除く)

お問合せは、大阪事務所まで

## 新年スタッフ研修、FH韓国チームも参加

1月14・15日に大阪で全スタッフ参加の新年研修会を行いました。研修は「支援の輪を広げる新しいアイデア」をチーム毎で討議して発表するコンテスト形式で行いました。15日にはFH韓国からのチームも加わり(写真⑥)、支援の輪を広げるアイデアについての意見交換や交流をもつことができました。



※▶記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

## サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 355号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送ってください。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送ってください。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...4699口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155  
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782  
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F  
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132  
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号  
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター